「府民の防災意識に関するアンケート」リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

東日本大震災や熊本地震など、近年、大規模地震が発生しており、大阪府においても、平成30年6月に「大阪府北部を震源とする地震」が、9月には台風第21号などの大規模災害が発生したところである。今後、大阪府では、南海トラフ巨大地震が近い将来、高い確率で発生することが予想されており、いつ起こるかわからない自然災害などから府民の生命、財産を守ることは府の使命である。

しかしながら、過去の大規模災害では、行政自体も被災し、行政機能が麻痺するなど公助の限界が明らかとなり、自らの命は自らが守る「自助」、共に助け合う「共助」が、いかに重要かを教訓として、府民自らあるいは、住民同士の地域等の連携による取組みの重要性が高まっている。本調査では府民の日頃の防災に関する意識や行動、「大阪府北部を震源とする地震」の状況などを調査し、今後の防災施策の参考資料とする。

1. 調査仮説

仮説１　ボランティア活動の経験がある人は、「自助」・「共助」の取組みをしている人が多く、災害ボランティアへの参加意欲も高い。

仮説２　普段から共助の取組みをしている人の方が、災害時の共助にも意欲が高い。

仮設３　大阪府北部を震源とする地震では、年代によって、災害情報を得ていたツールが違う。

仮説４　災害に備えていた人の方が、大阪府北部を震源とする地震直後に身の安全を守る行動を取っている。

1. 調査対象　国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

SC1 性別

SC2 年齢

SC3 都道府県

SC4 市町村

SC5 区

SC6 婚姻状況

SC7 職業

本質問　25問

＜ 日頃の防災意識等について ＞

Ｑ1 普段からどのような自然災害が起こることを意識しているか（MA）

Ｑ2災害の種別ごとにハザードマップ（防災マップ）などを確認しているか（ＳＡ）

Ｑ3住んでいる地域の災害の危険性や災害対策について、普段から充実してほしい情報（ＭＡ）

Ｑ4 実際に自然災害が起こったときに、充実してほしい情報（ＭＡ)

Ｑ5 現在の災害に対する家庭での備え(ＭＡ)

Ｑ6【Q5食料・飲料水を備えている人】何日分用意しているか(SA)

Ｑ7【Q5備えていない人】その最も大きな理由(SA)

Ｑ8　この1年間での地域の防災活動の参加状況(SA)

Ｑ9 【参加していない】参加していない理由（SA）

Ｑ10 自主防災組織の認知(SA)

Ｑ11　この1年での防災以外の一般的な地域活動の参加状況(MA)

Ｑ12【参加していない】参加していない理由（SA）

Q13　災害時に共助を行う意欲（SA）

　　Q14　日頃からご近所づきあいはあるか（SA）

　　Ｑ15　この3年間のボランティア活動の有無（MA）

　 Q16　【Q15災害ボランティアに行った人】いつ頃参加したか（MA）

Q17　災害時に災害ボランティアに参加したいと思うか（ＳＡ）

＜ 大阪府北部を震源とする地震ついて＞

Q18　地震発災時、どこにいたか（SA）

Ｑ19　揺れがおさまった後の行動（ＭＡ）

　　Q20　会社（職場）や学校に行ったか（SA）

　　Q21　【Q20　会社（職場）や学校に行った】行った理由（SA）

Ｑ22　家族との連絡・安否確認の手段。（MＡ）

　　Q23　情報入手手段（MA）

　　Q24　地震前から備えていたもの、備えていて役に立ったもの（表組・MA）

　　Ｑ25　世帯構成（SＡ）

検証方法

仮説１ Q15×Q5　Q15×Q8　Q15×Q11 Q15×Q17

仮説２ Q13×Q8　 Q13×Q11

仮説３ SC2×Q23

仮説４ Q5×Q19